

平成26（2014）年度入学者

専門教育科目

《専門教育科目 相談援助共通科目》

科目名	医療ソーシャルワーク		科目ナンバリング	SFFB24001
担当者氏名	和田 光徳			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー） ○ 1-4 学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる（自己管理能力） ○ 2-1 収集したデータを集約し効果的に表現することができる（分析力、プレゼンテーション力） ◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） 			

《授業の概要》

ソーシャルワークの二次専門分野のひとつとされる「医療ソーシャルワーク」の理論と実践の概要を学ぶ。事例の検討を通じて、ソーシャルワーカーの視点を考察し、ソーシャルワークの価値と倫理の理解を深める。

《授業の到達目標》

保健医療サービスの利用者である患者および家族の生活問題を学ぶ。また、サービス提供制度及び担い手たちの特性を理解し、利用者（患者・家族）を中心とした連携のあり方、医療ソーシャルワーカーの具体的実践についてイメージができ、支援の基本的枠組みを考えることができるようになる。

《成績評価の方法》

(1) 授業内小テスト（採点後返却します） 60%
 (2) 期末課題レポート（患者と、その家族など当事者の闘病記や体験記を読み込みレポートにまとめる（A4・2枚・2400字以上） 40%
 提出物についてはコメントを付し返却する。

《テキスト》

授業内で資料を配布します。

《参考図書》

- ①「新・医療福祉学概論」 佐藤俊一・竹内一夫・村上須賀子 編著 誠信書房 2010
- ②「医療ソーシャルワーカーの力」 村上須賀子・竹内一夫 編著 医学書院出版サービス 2012
- ③新・はじめて学ぶ社会福祉「保健医療サービス」 杉本敏夫 監修 ミネルヴァ書房 2017

《授業時間外学習》

患者とその家族など、当事者の闘病記や体験記を幅広く読み、「病」をかかえながら生きるということの生活体験について、共感的に理解を深めてほしい。

《備考》

授業内テーマに対する考えや意見を求めます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	事例からみる医療ソーシャルワーク	授業のオリエンテーション 事例による「医療ソーシャルワーク実践」から、必要な知識・スキルを概観する
2	医療ソーシャルワークの歴史的概観	日本、イギリス、アメリカにおける医療ソーシャルワークの歴史を概観する
3	医療ソーシャルワークの構造モデル	「医療と福祉」から「医療福祉」の統合的視点の意義について学ぶ
4	患者の心理	病と疾患の違い、役割理論から学ぶ「患者」の世界観を概観する
5	医療の生態系の理解	医療法、療養担当規則の理解、医療機関の組織上の特徴と、医療ソーシャルワーカーの組織内外の「連携」について、
6	医療ソーシャルワークを支える価値	医療ソーシャルワーク実践における、一般的ソーシャルワークと共通する実践的価値と特徴的な価値を学ぶ
7	高齢者福祉と医療ソーシャルワーク	高齢者に関わる医療問題、延命や医療的処置、孤立化による家族不在の問題など、高齢者福祉における医療ソーシャルワーク実践を学ぶ
8	がん患者と医療ソーシャルワーク	現在のがん対策基本法下にあるがん医療状況と、医療ソーシャルワーカーの役割を考える
9	児童福祉と医療ソーシャルワーク	要保護児童対策、児童虐待対応、小児医療と医療ソーシャルワーク実践について学ぶ
10	貧困問題と医療ソーシャルワーク	ホームレスやネットカフェ難民、ひきこもりと老親同居、相対的貧困率の増加など、新たな貧困問題と医療ソーシャルワークの関わりを考察する
11	障害者福祉、難病施策と医療ソーシャルワーク	障害者虐待、障害者に対する医療、二次性障害の存在や難病患者の生活支援、遺伝と生殖医療にまつわる問題と医療ソーシャルワークについて考察する
12	退院支援と医療ソーシャルワーク	現代の医療ソーシャルワークの中心的課題となっている「退院支援」について、医療ソーシャルワークの視点と実践について考察する
13	地域包括ケアと医療ソーシャルワーク	地域包括ケアシステムの理解と医療ソーシャルワークが関わることの意義について考察する
14	労働災害等と医療ソーシャルワーク	労働災害や公害、薬害、肝炎問題など、社会的要因の関連の深い疾患と、医療ソーシャルワークの働きについて考察する
15	課題レポート発表、まとめ	医療福祉に関連する著作、患者・家族の闘病記、体験記を読み、そこに読み取れる「社会的問題」を考察し、レポートにまとめたものを発表し意見交換を行う

科目名	福祉行財政と福祉計画（応用）		科目ナンバリング	SFFB24002
担当者氏名	中本 淳			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
				4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心） ○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー） ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） 			

《授業の概要》

少子高齢化と所得格差拡大が進むわが国において、行政・財政における福祉に関する課題は今後ますます重要性を増していく。本講義では、地方財政白書や厚生労働白書をはじめとする政府刊行物等の記述やデータを踏まえつつ、福祉の現状についての基本的知識の定着を図るとともに、その将来について共に考えていく。

《テキスト》

なし（講義資料を配布する）

《参考図書》

『福祉行財政と福祉計画 第4版』中央法規出版，2014年

《授業の到達目標》

- ①国と地方の財政制度について理解し、その中における福祉の位置づけを説明できる。
- ②近年の地方財政をめぐる諸課題とその対応について説明することができる。
- ③高齢化の状況と、それに伴う今後の政策課題について説明することができる。

《授業時間外学習》

配布資料に基づいて、予習・復習を励行すること。

《成績評価の方法》

平常点(20%)＋レポート課題(30%)＋期末試験(50%)

《備考》

*平常点はリアクションペーパーにおける授業理解度を評価する(適宜コメントを付けて返却する)。

*レポート課題は1回を予定。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	この講義の狙い・方針について話し、日本の財政が直面している課題を理解する。
2	日本財政の現状①	前年度予算を使用して日本財政の現状と今後の課題について説明することができる。
3	日本財政の現状②	国と地方の役割分担について理解し、地方財政における歳出の動向を説明することができる。
4	日本財政の現状③	地方交付税をはじめとする地方財政の主な歳入項目の動向について説明することができる。
5	日本財政の現状④	国と地方の予算の編成過程を説明することができる。
6	地方財政の動向①	最近の地方財政をめぐる諸課題のうち、地方財政の健全化に資する取組や、まち・ひと・しごと創生の動きについて理解する。
7	地方財政の動向②	最近の地方財政をめぐる諸課題のうち、社会保障・税一体改革や、地方分権改革の推進について理解する。
8	高齢化と福祉①	社会保障制度の意義や財源・給付の現状について説明することができる。
9	高齢化と福祉②	高齢化の状況や高齢者を取り巻く状況について、理解する。
10	高齢化と福祉③	医療保険制度について、目的・給付内容・財源構成について説明することができる。
11	高齢化と福祉④	介護保険制度について、目的・給付内容・財源構成について説明することができる。
12	高齢化と福祉⑤	「平成28年版 厚生労働白書」の記述をもとに、高齢化が進展するわが国において、どのような施策を行っていくべきか、考える。
13	現代社会と福祉①	近年における労働環境の変化について、理解する。
14	現代社会と福祉②	今後の社会保障制度のあり方について考える。
15	まとめ	これまでの学修内容を整理する。

《専門教育科目 相談援助共通科目》

科目名	相談援助演習（統合）	科目ナンバリング	SFFB24003
担当者氏名	和田 光徳		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感性、観察力、問題発見力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力） 		

《授業の概要》

相談援助演習 IA・IB・IIを通じて習得した内容を、より理解を深め、実践的に思考し、技能として使うことができるようになることを目指します。

《テキスト》

授業内で資料を提示する

《参考図書》

《授業の到達目標》

ソーシャルワーク・スキルズ・ワークブックを基本に、演習、グループワークや討論を中心に授業を進めます。グループワークや討論にあたっては、予習として課題を出しますので、課題について調べたり資料を精読して、授業に臨んでください。面接の初期過程における具体的な技術を演習を通じて習得します。

《授業時間外学習》

これまで学んだすべての専門科目群の知識が実践技能の統合として基礎的要件となります。さらにアドバンスとして専門書の抄読を事前課題として求めます。

《成績評価の方法》

- ①課題への取り組み等授業準備と授業中の参加態度 50%
- ②演習（ロールプレイ等）で要求される技能の評価 30%
- ③レポート課題 20%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の進め方について
2	「プロ」とは何か	ソーシャルワークにおける「プロフェッショナリズム」について考える
3	ソーシャルワークにおける倫理	社会的・経済的正義、差別、偏見、社会的弱者のおかれている状況を考察し、自己の価値観と専門職の倫理を考察する
4	自己理解とセルフコントロール	面接の技能（基本的な人間関係機能について、自己を振り返る）
5	自己理解とセルフコントロール	面接の技能（聴くこと・話すこと、傾聴する）について演習を通じて理解を深める
6	面接の過程（準備期）I	面接の準備：①準備的レビュー、②準備的探索、を理解する
7	面接の過程（準備期）II	面接の準備：③準備的コンサルテーション、④準備的アレンジ、を理解する
8	面接の過程（準備期）III	面接の準備：⑤準備的共感、⑥準備的自己探索、について理解を深める
9	面接の過程（開始期）I	支援過程の開始期における面接：①自己紹介、紹介を求める、について演習を通じて学ぶ
10	面接の過程（開始期）II	支援過程の開始期における面接：②初期目的を描く（陳述する）について演習する
11	面接の過程（開始期）III	支援過程の開始期における面接：③政策的（制度的）、倫理的要素について話し合う。クライアントにフィードバックする。について学ぶ
12	面接の過程（探索）	問題の明確化に向けての探索の技術について理解する
13	アセスメントと契約	仮説をたてること、仮説をクライアントと共有すること、アセスメントの過程とクライアントとの契約について学ぶ
14	クライアントとの契約	クライアントとの契約過程とアクションプラン、アクションステップについて学ぶ
15	クリティカル・シンキングとは	クリティカル・シンキングを理解する

科目名	卒業演習		科目ナンバリング	SFFB14004	
担当者氏名	和田 光徳、小倉 毅、小林 茂				
授業方法	演習	単位・必選	4・必修	開講年次・開講期	4年・通年（I期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー） ○ 1-4 学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる（自己管理能力） ○ 2-1 収集したデータを集約し効果的に表現することができる（分析力、プレゼンテーション力） ○ 2-2 統計的データを理解し、加工し、活用することができる（統計分析力） 				

《授業の概要》

・4年間の学習の集大成として、それぞれの指導教員の指導に従って、卒業論文を執筆、完成させ、発表します。
 ・卒業論文の執筆にあたっては、課題の設定、仮説の作成のための文献の読解、データや資料の収集と分析、考察という過程が必要です。さらに分析、考察、結果を論文として仕上げるために整理し、執筆する能力が求められます。

《授業の到達目標》

・卒業論文を執筆することが目標です。卒業論文を執筆するまでの文献読解、資料収集、分析などの手法を身につけることが一つの作業的目標です。
 ・二つ目の目標は、選定したテーマについて、「人」と「人を取り巻く社会」との関係の踏まえて、社会の課題を理解し解決に向けて考察する、学際的な視点を身につけることです。

《成績評価の方法》

卒業論文執筆までの過程における研究への取組み、論文の内容及び発表とを総合的に評価します。
 ※卒業論文の締め切り日程は別途指示をします。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
2	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
3	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
4	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
5	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
6	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
7	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
8	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
9	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
10	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
11	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
12	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
13	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
14	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
15	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。

《テキスト》

演習担当教員の指示に従ってください。

《参考図書》

演習担当教員の指示に従ってください。現代の社会福祉問題は多様性、複合的ところに特徴があり、ひとつの専門領域だけで、解決することは困難です。卒業論文についても常に学際的な視点を持ち、必要であれば他の専門領域の教員と横断的に作業を進めていくことになります。

《授業時間外学習》

卒業論文執筆における文献の講読、調査、分析、考察の他、発表の準備等は時間外に行います。授業時間は、事前課題の成果を担当教員に報告し、資料収集や執筆に関する助言を得るために用います。

《備考》

卒業論文は人生におけるおそらく最初で最後の論文の執筆となるかもしれません。これまでの学校生活、大学生活で培ったすべての能力を傾けて取り組んでください。

科目名	卒業演習		科目ナンバリング	SFFB14004	
担当者氏名	和田 光徳、小倉 毅、小林 茂				
授業方法	演習	単位・必修	4・必修	開講年次・開講期	4年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる(論理的思考力、情報リテラシー) ○ 1-4 学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる(自己管理能力) ○ 2-1 収集したデータを集約し効果的に表現することができる(分析力、プレゼンテーション力) ○ 2-2 統計的データを理解し、加工し、活用することができる(統計分析力) 				

《授業の概要》

・4年間の学習の集大成として、それぞれの指導教員の指導に従って、卒業論文を執筆、完成させ、発表します。
 ・卒業論文の執筆にあたっては、課題の設定、仮説の作成のための文献の読解、データや資料の収集と分析、考察という過程が必要です。さらに分析、考察、結果を論文として仕上げるために整理し、執筆する能力が求められます。

《授業の到達目標》

・卒業論文を執筆することが目標です。卒業論文を執筆するまでの文献読解、資料収集、分析などの手法を身につけることが一つの作業的目標です。
 ・二つ目の目標は、選定したテーマについて、「人」と「人を取り巻く社会」との関係性を踏まえて、社会の課題を理解し解決に向けて考察する、学際的な視点を身につけることです。

《成績評価の方法》

卒業論文執筆までの過程における研究への取り組み、論文の内容及び発表とを総合的に評価します。
 ※卒業論文の締め切り日程は別途指示をします。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
2	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
3	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
4	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
5	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
6	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
7	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
8	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
9	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
10	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
11	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
12	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
13	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
14	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
15	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。

《テキスト》

演習担当教員の指示に従ってください。

《参考図書》

演習担当教員の指示に従ってください。現代の社会福祉問題は多様性、複合的ところに特徴があり、ひとつの専門領域だけで、解決することは困難です。卒業論文についても常に学際的な視点を持ち、必要であれば他の専門領域の教員と横断的に作業を進めていくことになります。

《授業時間外学習》

卒業論文執筆における文献の講読、調査、分析、考察の他、発表の準備等は時間外に行います。授業時間は、事前課題の成果を担当教員に報告し、資料収集や執筆に関する助言を得るために用います。

《備考》

卒業論文は人生におけるおそらくは最初で最後の論文の執筆となるかもしれません。これまでの学校生活、大学生活で培ったすべての能力を傾けて取り組んでください。

《専門教育科目 相談援助基盤科目》

科目名	更生保護制度	科目ナンバリング	SSWC24005
担当者氏名	光田 豊茂		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 2-2 統計的データを理解し、加工し、活用することができる（統計分析力） ◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） 		

《授業の概要》

更生保護制度は「犯罪をした者及び非行のある少年に対し、社会内において適切な処遇を行うことにより、再び犯罪をすることを防ぎ、又はその非行をなくし、これらの者が社会の一員として自立し、改善更生することを助けること」が、その目的である。その具体的な制度の内容や、それに携わる人達の働きについて講義する。（より実際的な業務を理解するために、その業務に携わる職員をゲスト講師として招く予定です。）

《授業の到達目標》

更生保護制度の概要を把握し、この制度の目的を果たすために働いている保護観察官や保護司等の業務やその役割が理解できる。それと共に、これに関する諸機関、更生保護施設等の役割についても理解できる。

《成績評価の方法》

授業への取り組み・コメント内容（60%）
 レポート課題に対する取り組み（40%）
 ※レポートにはコメントを付して返却する。

《テキスト》

新・社会福祉士養成講座20『更生保護制度』第4版（社会福祉士養成講座編集委員会）、中央法規出版、2017

《参考図書》

《授業時間外学習》

毎回授業が終わった後に、その授業内容について復習をしており、疑問点等があれば次回授業に質問すること。

《備考》

授業中、積極的に質問や意見を述べること。
 8週の授業計画です。必要授業時間数=(90分×7週) + 45分

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	更生保護制度の概要	刑事司法の中の更生保護の果たす役割やこれまでの歴史、位置づけについて理解する。
2	仮釈放等の制度	仮釈放等の制度の流れと更生保護委員会・保護観察所の業務とその役割について理解する。
3	保護観察	保護観察の目的、方法とその担い手である保護観察官・保護司の業務とその役割について理解する。
4	保護観察の実際	更生保護制度の担い手である保護観察官の仕事の実際を理解する。（ゲスト講師予定）
5	更生保護制度の担い手	更生保護制度の担い手として、保護司、更生保護施設、更生保護女性会、BBS会、協力雇用主等の多くの民間ボランティアが活動やその役割について理解する。
6	地域生活定着支援センターの役割	高齢者や障害を抱える自立困難な刑務所出所者等に対する社会復帰の支援内容や、それに携わる支援者のかかわりについて理解する。（ゲスト講師予定）
7	医療観察制度	医療観察制度における処遇の流れと、その中で果たす社会復帰調整官の業務とその役割について理解する。（ゲスト講師予定）
8	まとめ	更生保護制度の全体の流れをもう一度確認して、本制度の役割について理解する。
9	—	—
10	—	—
11	—	—
12	—	—
13	—	—
14	—	—
15	—	—

《専門教育科目 相談援助基盤科目》

科目名	福祉サービスの組織と経営		科目ナンバリング	SSWC24006	
担当者氏名	西澤 正一				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ） ◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力）				

《授業の概要》

六法を基盤とする社会福祉は、介護保険制度等の導入という大転換が図られたが、既に十年以上が経過し福祉サービス提供組織も多様化するなか、そのあり方が課題となっている。利用者自らがサービスを選択する時代のもと、単なる運営から経営という新たな感覚が問われる時代となっているが、福祉サービスに係わる組織とその経営について、教科書中心でなく福祉実践体験から得た情報提供を通じて学ばせる。

《テキスト》

編集 社会福祉士養成講座編集委員会 書名 社会福祉士養成講座11「福祉サービスの組織と経営」第4版（2013.2刊行）中央法規出版

《参考図書》

書名 「よくわかる社会福祉施設運営管理」ミネルバ書房（2010.3） 編者 小松理佐子

《授業の到達目標》

①福祉サービスに係わる組織の団体について学ぶ ②福祉サービスに係わる組織の経営の実践を学ぶ ③福祉サービス提供組織の経営の実際を学ぶ ④福祉サービスの管理運営の方法と実際を理解する。以上を通して全般的な福祉サービス提供主体を学び、そこにおける経営のあり方を考えることができる。

《授業時間外学習》

授業の中で適時課題を課すので、そのつど指示期日までに提出のこと。また積極的に自己にて課題を見つけ、不明な点は随時確認すること。

《成績評価の方法》

出席状況（20%）＋学期末試験（60%）＋その他、グループ討議での発表や受講態度等を総合的に判断（20%）
提出物にはコメントを付して返却する。

《備考》

※授業計画における毎回のテーマや内容は講義の進展に応じ多少前後する場合あり。福祉現場での実践事例や報道等を多く活用し、自ら考える授業としたい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス(コース概要)	社会福祉専門職としての資格取得や社会福祉事業に就く者として、机上の理論を習得するのみでなく、実践としての経営管理について学ぶ姿勢を説明。
2	福祉サービスにおける組織と経営	福祉サービスの意義だけでなく、福祉サービス提供組織や経営管理について、その時代のニーズや環境によって変化していく現状と経営理論を理解することができる。
3	福祉サービスにかかわる組織 団体①	法人の存在意義と経営形態について学ぶと共に、福祉サービスにかかわる団体や組織についても理解し、それぞれの定義や役割・各機関の現状や課題について学べる。
4	福祉サービスにかかわる組織 団体②	我が国の福祉サービスの提供主体として大きな役割を果たしてきた社会福祉法人や特定非営利活動法人・医療法人等を理解し、それぞれの特徴を確認できる。
5	福祉サービスの組織と経営の基礎理論	経営を学ぶ上で最低限必要となる基本的概念や理論、また経営戦略の策定プロセス、更には集団力学やリーダーシップ理論について理解できる。
6	福祉サービスの管理運営の方法①サービス管理	マーケティングの基本的要素である「4つのP」を基軸、にサービス管理に必要な基礎的事項を知ることができる。
7	福祉サービスの管理運営の方法①質の向上と評価	サービスの質の向上や第三者評価の重要性を理解し、福祉サービス提供にあたってのリスクや今後の課題を理解することができる。
8	福祉サービスの管理運営の方法②人事管理	今日の福祉サービスの多様な提供主体を知り、専門家を中心とした組織での人事管理を学べる。
9	福祉サービスの管理運営の方法②労務管理	福祉サービスにおける人事・労務管理を、関係法令に定められた基準に即して理解し、人材確保の課題と共にその育成について学ぶことができる。
10	福祉サービスの管理運営の方法②職員研修	職場研修のあり方や推進体制、OJT等の職場研修の基本形態を知り、福祉人材のキャリア開発とキャリアパスを理解することができる。
11	福祉サービスの管理運営の方法③法人経営と財務	企業とは異なる、特殊な性格を有する社会福祉法人における財務管理について学び、公益性の追求についても理解できる。
12	福祉サービスの管理運営の方法③福祉事業の財源	福祉サービスの提供事業所における財務諸表の概要を知り、その見方や使い方を習得することができる。
13	福祉サービスの管理運営の方法④情報管理	福祉サービスの利用時における選択権の保証と、情報提供のあり方について学び、その管理を多面的に捉えることができる。
14	福祉サービスの管理運営の方法④戦略的広報	超高齢化と高度情報社会の進展に伴って変革する福祉サービスの考えをふまえ、事業経営での情報と、戦略的広報について学べる。
15	まとめ	学生自らが関心を持った福祉サービス事業について更に理解を深め、自己の今後の役割について考えることができる。

《専門教育科目 相談援助基盤科目》

科目名	福祉サービスの組織と経営（応用）		科目ナンバリング	SFFC24007
担当者氏名	竹川 宏子			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期 4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ） <input checked="" type="radio"/> 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） <input type="radio"/> 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力）		

《授業の概要》

社会福祉法人の経営は利益追求を第一としない非営利組織であり、株式会社などの営利組織とは異なるが、効率的な経営やサービス向上を追求するうえで企業経営の視点は欠かせない。この授業では企業経営の基本的な考え方を学び、それを福祉サービスの組織でどう生かしていくかを学ぶ。

《テキスト》

平林亮子・高橋知寿『やさしくわかる社会福祉法人の経営と運営』税務経理協会，2014年

《参考図書》

周佐喜和・竹川宏子・辻井洋行・仲本大輔『経営学1』実教出版，2009年

《授業の到達目標》

- 組織を経営していくために何が必要であるかを理解できるようになる。
- 企業経営と福祉サービス事業の経営との違いを理解できるようになる。
- 福祉サービス事業の経営に企業経営の視点を加えて考えられるようになる。

《授業時間外学習》

- ①指定したテキストの箇所（自習により学ぶ方が適切と考える部分）を読むこと，②レポート作成を授業時間外学習とする。

《成績評価の方法》

（1）定期試験80％（なお、試験はテキスト等の「持ち込み不可」にて実施する），（2）レポート作成20％として評価する。ただし、レポートは必ず提出するものとする。定期試験の解答用紙とは別にコメントを返す。

《備考》

企業の成功例の中には、福祉サービス事業で応用可能なものも存在する。したがって、日ごろから企業経営に関する話題にも関心を持っていただきたい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要と進め方	シラバスを参照しながら授業の概要と学習意義について理解する。
2	株式会社の意思決定機関	株式会社の最高意思決定機関である株主総会と取締役会、監査役について理解する。
3	経営資源	企業活動に必要なとされるヒト、モノ、カネ、情報といった経営資源の種類と特徴について理解する。
4	企業の財務管理	企業の活動資金の調達と運用について理解する。
5	企業の人的資源管理	人的資源管理で行われる採用、配置、退職、人材育成などの主要項目について理解する。
6	マーケティング	マーケティングの概念と企業における必要性について理解する。
7	経営戦略	経営戦略の概念と企業における必要性について理解する。
8	企業の発展とイノベーション	企業活動を発展させるために重要な概念であるイノベーションについて理解する。
9	営利組織と非営利組織	営利組織と非営利組織それぞれの特徴と両者の違いを理解する。
10	社会福祉法人の意思決定機関	採用、配置、異動、評価、能力向上、退職など主要な管理項目について理解する。
11	社会福祉法人の資金的資源の管理①	社会福祉法人の資金繰りについて理解する。
12	社会福祉法人の資金的資源の管理②	社会福祉法人の経理業務について理解する。
13	社会福祉法人の人的資源の管理	社会福祉法人の従業員（職員）管理について理解する。
14	社会福祉法人におけるマーケティングと経営戦略	社会福祉法人の運営において、どのようなときにマーケティングや経営戦略の考え方を活用することができるのかについて意見を出し合い、それをレポートとしてまとめる。
15	まとめ	学習内容の振り返りを行う。

《専門教育科目 相談援助基盤科目》

科目名	福祉工学	科目ナンバリング	SFFC24008
担当者氏名	稲富 恭		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力） 		

《授業の概要》

高齢者、障害者が地域社会の中で生活を送るためには、福祉の視点にたった住環境整備を欠かすことが出来ない。本講義では、(1)住環境整備の背景となる社会福祉の現状について概観するとともに、(2)住宅改修、バリアフリー、ユニバーサルデザインを中心に福祉住環境整備手法について学ぶ。

《テキスト》

「福祉住環境コーディネーター検定試験3級公式テキスト 改訂4版」東京商工会議所, 2016

《参考図書》

「福祉住環境コーディネーター検定試験 3級過去問題集 2017年版」HIPS合格対策プロジェクト, 2017

《授業の到達目標》

- 福祉住環境コーディネーター3級に相当する能力を身につける。
- 生活環境の不適合に対して、物理的な問題解決手段を提案できる能力を身につける。

《授業時間外学習》

- ・予習の方法
シラバスを参考に、テキストの該当箇所に目を通し、疑問点を明確にしておく。
- ・復習の方法
テキストの必要箇所を暗記する。配布プリントの問題を復習し、次回の小テストの準備を行う。

《成績評価の方法》

- ・授業中に毎回実施する小テスト(100%)によって評価する。
- ・小テストは採点后返却し、解説を行う。

《備考》

原則として「福祉住環境コーディネーター検定試験3級」の受験を目指す学生を対象とする。
試験日程に合わせて、開講日を変更する場合がある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	少子高齢社会と福祉住環境整備	少子高齢社会の現状と今後のあり方について理解する
2	日本の住環境と福祉住環境整備	日本の住空間の特性と福祉住環境整備の必要性について理解する
3	福祉住環境と在宅ケア	介護保険制度と障害者総合支援法を中心に在宅生活の支援について理解する
4	高齢者の健康と生活	老化の特性とヘルスプロモーションについて理解する
5	障害者の自立と生活	障害の種類と障害者の社会参加状況について理解する
6	バリアフリーとユニバーサルデザイン	バリアフリー、ユニバーサルデザインの歴史、概念について理解し、具体的なデザイン手法について理解する
7	福祉用具の分類と活用	共用品、福祉用具の概念、分類、役割について理解する
8	居住環境整備の技術(1)	居住環境整備に必要な空間設計について理解する
9	居住環境整備の技術(2)	居住環境整備に必要なデザイン、設備計画、避難防災計画について理解する
10	生活行為と空間整備	移動、入浴、排泄等の生活行為に必要な空間整備方法について理解する
11	ライフスタイルの多様化と住まい	戦後の家族形態の変化とそれに伴う生活形態について理解する
12	安心できる住生活	高齢者居住法、住宅セーフティネット法等の居住安定政策について理解する
13	安心して暮らせるまちづくり	福祉のまちづくり条例等、地域における福祉住環境整備について理解する
14	授業の補足と重要箇所の復習	授業内容の重要ポイントについて補足し、「福祉住環境コーディネーター検定試験」の準備を行う。
15	授業のまとめ	授業のまとめと小テストの解説

《専門教育科目 相談援助基盤科目》

科目名	精神保健福祉援助演習（専門）A		科目ナンバリング	SPSC23024	
担当者氏名	光田 豊茂				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<ul style="list-style-type: none"> ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） ◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力） 			

《授業の概要》

精神障害者に対する援助技術（ケースワーク・グループワーク・コミュニティワーク等）及び地域生活支援の技法について学生が実感し、その技術・技法が身につくよう、精神障害者の社会復帰や地域生活支援に対する援助技術を具体的に検討し、学生自身が積極的に報告し、小グループで議論し合う形で事例検討及びロールプレイを行う。

《テキスト》

新・精神保健福祉士養成講座8『精神保健福祉援助演習（基礎・専門）』第2版 日本精神保健福祉士養成校協会編集、中央法規出版、2016

《参考図書》

《授業の到達目標》

精神障害者の生活支援を目指して、精神保健福祉士としての援助の視点を踏まえて、精神保健福祉士のもつ専門的援助技術及び地域生活支援の技法について理解できる。

《授業時間外学習》

実際現場で実践的に使える技術・技法の習得を目指すので、学生自身も率直な意見・質問を積極的に考えて来て授業に臨むこと。

《成績評価の方法》

授業への取り組み（50%）
レポート課題に対する取り組み（50%）
※レポートにはコメントを付して返却する。

《備考》

授業中、積極的に質問や意見を述べること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	インテーク面接	インテーク面接での留意事項や面接内容について、ロールプレイを行いながら学習する。
2	事例2/ストレングスモデル①	ストレングスモデルによるアセスメントを理解する。
3	事例2/ストレングスモデル②	ストレングス視点に基づいたアセスメントからケアプランを作成する。
4	事例3/SSTを用いたりハビリテーション①	相談援助の過程でのSSTの活用を理解する。
5	事例3/SSTを用いたりハビリテーション②	SSTとは、何を目的として、どのように実施するのかを理解する。
6	事例5/デイケアでのリハビリテーション①	デイケアにおける精神保健福祉士の役割について理解する。
7	事例5/デイケアでのリハビリテーション②	グループワークの意義や手法について理解する。
8	社会復帰施設見学予定	社会復帰施設を見学学習することによって、地域で生活している精神障害者の生活支援について考える。
9	精神保健福祉士の実際業務	精神保健福祉現場で働いている精神保健福祉士の実際業務について理解する。（ゲスト講師予定）
10	当事者理解	当事者の体験談を聞くことによって、当事者の思いやニーズを知り、支援者の役割を考える。（ゲスト講師予定）
11	事例11/自殺予防①	自殺の危機にある人の、どのような様子や態度に気づくべきかを学ぶ。
12	事例11/自殺予防②	自殺の危機にある人を適切な機関や人へつなげる方法を学ぶ。
13	事例14/地域定着支援①	地域定着支援の目的およびプロセスを知り、そこにかかわる精神保健福祉士の視点、役割について理解する。
14	事例14/地域定着支援②	地域定着支援のための社会資源の活用を通して、関係機関等との連携、協働によるネットワーク形成の意味を理解する。
15	夏季休暇課題説明（社会資源調査）	自分が住んでいる地域の精神保健福祉領域の社会資源調査とマップ作りについて

《専門教育科目 相談援助基盤科目》

科目名	精神保健福祉援助演習（専門）B		科目ナンバリング	SPSC23025
担当者氏名	光田 豊茂			
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
				4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） ◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力） 			

《授業の概要》

精神障害者に対する援助技術（ケースワーク・グループワーク・コミュニティワーク等）及び地域生活支援の技法について学生が実感し、その技術・技法が身につくよう、精神障害者の社会復帰や地域生活支援に対する援助技術を具体的に検討し、学生自身が積極的に報告し、小グループで議論し合う形で事例検討及びロールプレイを行う。

《テキスト》

新・精神保健福祉士養成講座8『精神保健福祉援助演習（基礎・専門）』第2版 日本精神保健福祉士養成校協会編集、中央法規出版、2016

《参考図書》

《授業の到達目標》

精神障害者の生活支援を目指して、精神保健福祉士としての援助の視点を踏まえて、精神保健福祉士のもつ専門的援助技術及び地域生活支援の技法について理解できる。

《授業時間外学習》

実際現場で実践的に使える技術・技法の習得を目指すので、学生自身も率直な意見・質問を積極的に考えて来て授業に臨むこと。

《成績評価の方法》

授業への取り組み（50%）
レポート課題に対する取り組み（50%）
※レポートにはコメントを付して返却する。

《備考》

授業中、積極的に質問や意見を述べること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	夏季休暇の課題報告	学生に夏休暇に調べた自分の住んでいる地域の精神保健福祉領域の社会資源調査報告（マップ）を発表する。
2	事例2 1 /障害年金の活用①	精神障害者が障害年金を活用することの意味と意義について理解する。
3	事例2 1 /障害年金の活用②	精神保健福祉士による障害年金受給支援のあり方について学ぶ。
4	事例2 4 /アルコール依存①	アルコール依存の進行により、依存症本人が抱える問題の構造を理解する。
5	事例2 4 /アルコール依存②	アルコール依存への介入における精神保健福祉士の役割・援助方法について学ぶ。
6	自助グループの実際	AAのメンバーを招いて、当事者の体験談を聞き、自助グループの役割を理解する。（ゲスト講師予定）
7	事例2 6 /うつ病(成人)①	気分障害の当事者が地域生活を送るために精神保健福祉士が果たす役割を学び、病院と地域の連携の必要性について理解する。
8	事例2 6 /うつ病(成人)②	職場との関係調整について考える。
9	地域で働く精神保健福祉士の業務について	地域生活を行っている精神障害者に対して、地域で様々な形で支援を行っている精神保健福祉士を招き、その支援内容や役割について学習する。（ゲスト講師予定）
10	事例3 1 /医療観察法の対象者①	医療観察法の概要と社会復帰調整官の業務を理解し、社会復帰調整官である精神保健福祉士の専門性について学ぶ。
11	事例3 1 /医療観察法の対象者②	地域ケアを展開するうえで関連する社会資源とその連携について学ぶ。
12	事例3 3 /低所得者への支援①	低所得の問題に対し手、社会福祉制度を活用しながら支援を組み立てていく過程を実践的に学ぶ。
13	事例3 3 /低所得者への支援②	経済的な支援のみにとらわれず、利用者・家族の思いを受けとめて支援を行うことの重要性を理解する。
14	生活保護制度の実際	事例を通して生活保護制度の実際の活用について考える。
15	学習の振り返り	これまでの事例検討を通して、精神保健福祉士としての援助の視点や援助技術、関係機関との連携の仕方について、考えてきたことについて振り返る。

《専門教育科目 相談援助基盤科目》

科目名	精神保健福祉援助実習指導		科目ナンバリング	SPSC23026	
担当者氏名	光田 豊茂				
授業方法	実習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	4年・通年（I期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力） ○ 3-4 地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる（アドボカシー） 				

《授業の概要》

- 1、必要な知識及び援助並びに関連知識を実際に活用し、精神障害者に対する相談援助及びリハビリテーションについて必要な資質・能力・技術を習得する。
- 2、職業倫理を身につける。
- 3、具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。
- 4、専門職種との連携のあり方を理解する。

《テキスト》

『精神保健福祉援助実習指導・実習』第2版 日本精神保健福祉士養成校協会 中央法規出版社 2015年

《参考図書》

《授業の到達目標》

精神保健福祉士のあるべき姿を学び、これまで勉強してきたことを実習をとおして理解する。

《授業時間外学習》

実習計画書作成、実習先の特性調査など授業時間内では出来ない内容については各自その学習をする。
機会があれば、精神保健福祉現場の見学研修も実施する。

《成績評価の方法》

授業態度及び事前学習の発表内容（30%）
実習記録及び実習先の評価（40%）
実習報告会、実習報告書の内容（30%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 実習先の検討および調整	精神保健福祉援助実習の意味および組み立てについて 実習生の住所地、興味、進路に応じ実習先の検討を行う
2	実習に向けての事前学習	実習先でよく利用する社会制度・社会資源について調べ発表する
3	実習に向けての事前学習	実習先でよく利用する社会制度・社会資源について調べ発表する
4	実習に向けての事前学習	実習先でよく利用する社会制度・社会資源について調べ発表する
5	当事者理解	精神障害者の抱えている生活課題や困難について理解する（ゲスト講師予定：精神障害者当事者）
6	実習に向けての事前学習	実習先（医療機関）の概要を調べ発表する
7	精神保健福祉士業務の実際を知る	精神科医療機関における精神保健福祉士の実際業務について理解する（ゲスト講師予定：医療機関で働く精神保健福祉士）
8	実習に向けての事前学習	実習先（地域の事業所）の概要を調べ発表する
9	精神保健福祉士業務の実際を知る	地域で働く精神保健福祉士の実際業務について理解する（ゲスト講師予定：地域で働く精神保健福祉士）
10	実習計画書作成	各自、実習中のテーマを設定し、それに基づいて実習計画を立てる
11	実習計画書作成	各自、実習中のテーマを設定し、それに基づいて実習計画を立てる
12	実習計画書作成	各自、実習中のテーマを設定し、それに基づいて実習計画を立てる
13	実習先への事前訪問について	実習先に対する事前訪問の方法や留意点などを理解する
14	実習日誌の書き方	実習中の実習記録・実習日誌の意義を理解して、その書き方や留意点を確認する
15	個人指導	実習中の留意すべきことの再確認と同時に、実習関連書類の点検を行う

《専門教育科目 相談援助基盤科目》

科目名	精神保健福祉援助実習指導		科目ナンバリング	SPSC23026	
担当者氏名	光田 豊茂				
授業方法	実習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	4年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<ul style="list-style-type: none"> ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる(共感力、観察力、問題発見力) ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる(知識・技能の統合) ○ 3-4 地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる(アドボカシー) ○ 3-5 市民として専門家として自律的に学習を継続することができる(市民性・生涯学習力) 			

《授業の概要》

- 1、必要な知識及び援助並びに関連知識を実際に活用し、精神障害者に対する相談援助及びリハビリテーションについて必要な資質・能力・技術を習得する。
- 2、職業倫理を身につける。
- 3、具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。
- 4、専門職種との連携のあり方を理解する。

《テキスト》

『精神保健福祉援助実習指導・実習』第2版 日本精神保健福祉士養成校協会 中央法規出版社 2015年

《参考図書》

《授業の到達目標》

精神保健福祉士のあるべき姿を学び、これまで勉強してきたことを実習をとおして理解する。

《授業時間外学習》

実習報告会のプレゼンテーション内容の準備や実習報告書作成などは授業時間外でも各自その準備を行う。
機会があれば、精神保健福祉現場の見学研修も実施する。

《成績評価の方法》

授業態度及び事前学習の発表内容 (30%)
実習記録及び実習先の評価 (40%)
実習報告会、実習報告書の内容 (30%)

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	精神保健福祉現場実習の振り返り	実習の振り返り・各実習施設の印象・特色・全体的な振り返り
2	精神保健福祉現場実習の振り返り	実習各自の個別振り返り・スーパーバイザーからの学び・印象的なエピソード・課題など
3	精神保健福祉現場実習の振り返り	実習各自の個別振り返り・スーパーバイザーからの学び・印象的なエピソード・課題など
4	精神保健福祉現場実習の振り返り	各自の学び、課題の掘り下げ・ディスカッション
5	精神保健福祉現場実習の振り返り	各自の学び、課題の掘り下げ・ディスカッション
6	精神保健福祉現場実習の振り返り	実習で学んだ内容についての実習報告書作り
7	精神保健福祉現場実習の振り返り	実習で学んだ内容についての実習報告書作り
8	精神保健福祉現場実習の振り返り	実習で学んだ内容についての実習報告書作り
9	精神保健福祉現場実習の振り返り	実習報告書仕上げと報告書提出
10	精神保健福祉現場実習の振り返り	実習報告会に向けてのプレゼンテーション内容掘り下げ
11	精神保健福祉現場実習の振り返り	実習報告会に向けてのプレゼンテーション内容掘り下げ
12	精神保健福祉現場実習の振り返り	実習報告会に向けてのプレゼンテーション内容掘り下げ
13	精神保健福祉現場実習の振り返り	実習報告会で発表
14	精神保健福祉現場実習の振り返り	実習における実習報告書、及び実習報告会の振り返り
15	精神保健福祉現場実習の振り返り	実習における実習報告書、及び実習報告会の総まとめ

《専門教育科目 相談援助基盤科目》

科目名	精神保健福祉援助実習		科目ナンバリング	SPSC24009	
担当者氏名	光田 豊茂				
授業方法	実習	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	4年・通年（I期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-4 学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる（自己管理能力） ○ 1-5 自己の言動や役割に対して責任を持つとする態度（社会的責任） ○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ） ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） 				

《授業の概要》

厚生労働省指定の精神保健福祉現場（精神科医療機関及び地域の事業所等）においてトータルで210時間以上の実習を行う。実習を通して精神障害者の置かれている状況やその生活課題を理解し、その課題に対して精神保健福祉士がどのように支援を行っているのかを理解する。また、精神保健福祉士が行う支援において、求められる倫理や価値を基にして、必要な知識や技術について実習において会得する。

《テキスト》

『精神保健福祉援助実習指導・実習』第2版 日本精神保健福祉士養成校協会 中央法規出版社 2015年

《参考図書》

浦河べてるの家 『べてるの家の「当事者研究」』 医学書院 2009年

《授業の到達目標》

精神障害者の置かれている状況を理解しながら、その生活課題に対して精神保健福祉士が実際現場でどのような支援を行っているかを自分の頭で理解し、その支援が自分の実践に近づけるように体得する。

《授業時間外学習》

精神保健福祉法、障害者総合支援法、及び精神保健福祉士法を理解して実習に臨むこと。

《成績評価の方法》

実習に対する事前学習、参加意欲（30%）
 実習記録、及び実習先の評価（40%）
 実習報告会、及び実習報告書の内容（30%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	精神科医療機関における現場実習	精神科医療機関における入通院患者の置かれている状況を理解し、その生活課題に対して、精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを実際的に学ぶ。
2	精神科医療機関における現場実習	精神科医療機関における入通院患者の置かれている状況を理解し、その生活課題に対して、精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを実際的に学ぶ。
3	精神科医療機関における現場実習	精神科医療機関における入通院患者の置かれている状況を理解し、その生活課題に対して、精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを実際的に学ぶ。
4	精神科医療機関における現場実習	精神科医療機関における入通院患者の置かれている状況を理解し、その生活課題に対して、精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを実際的に学ぶ。
5	精神科医療機関における現場実習	精神科医療機関における入通院患者の置かれている状況を理解し、その生活課題に対して、精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを実際的に学ぶ。
6	精神科医療機関における現場実習	精神科医療機関における入通院患者の置かれている状況を理解し、その生活課題に対して、精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを実際的に学ぶ。
7	精神科医療機関における現場実習	精神科医療機関における入通院患者の置かれている状況を理解し、その生活課題に対して、精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを実際的に学ぶ。
8	地域の精神保健福祉分野における現場実習	地域の事業所を利用している精神障害者とのかかわりから、その方々の生活状況を理解し、その生活課題に対して精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを学ぶ。
9	地域の精神保健福祉分野における現場実習	地域の事業所を利用している精神障害者とのかかわりから、その方々の生活状況を理解し、その生活課題に対して精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを学ぶ。
10	地域の精神保健福祉分野における現場実習	地域の事業所を利用している精神障害者とのかかわりから、その方々の生活状況を理解し、その生活課題に対して精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを学ぶ。
11	地域の精神保健福祉分野における現場実習	地域の事業所を利用している精神障害者とのかかわりから、その方々の生活状況を理解し、その生活課題に対して精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを学ぶ。
12	地域の精神保健福祉分野における現場実習	地域の事業所を利用している精神障害者とのかかわりから、その方々の生活状況を理解し、その生活課題に対して精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを学ぶ。
13	地域の精神保健福祉分野における現場実習	地域の事業所を利用している精神障害者とのかかわりから、その方々の生活状況を理解し、その生活課題に対して精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを学ぶ。
14	地域の精神保健福祉分野における現場実習	地域の事業所を利用している精神障害者とのかかわりから、その方々の生活状況を理解し、その生活課題に対して精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを学ぶ。
15	地域の精神保健福祉分野における現場実習	地域の事業所を利用している精神障害者とのかかわりから、その方々の生活状況を理解し、その生活課題に対して精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを学ぶ。

《専門教育科目 相談援助基盤科目》

科目名	精神保健福祉援助実習		科目ナンバリング	SPSC24009	
担当者氏名	光田 豊茂				
授業方法	実習	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	4年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-4 学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる(自己管理能力) ○ 1-5 自己の言動や役割に対して責任を持つとする態度(社会的責任) ○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる(地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ) ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる(共感力、観察力、問題発見力) ◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる(知識・技能の統合) 				

《授業の概要》

厚生労働省指定の精神保健福祉現場(精神科医療機関及び地域の事業所等)においてトータルで210時間以上の実習を行う。実習を通して精神障害者の置かれている状況やその生活課題を理解し、その課題に対して精神保健福祉士がどのように支援を行っているのかを理解する。また、精神保健福祉士が行う支援において、求められる倫理や価値を基にして、必要な知識や技術について実習において会得する。

《テキスト》

『精神保健福祉援助実習指導・実習』第2版 日本精神保健福祉士養成校協会 中央法規出版社 2015年

《参考図書》

浦河べてるの家 『べてるの家の「当事者研究」』 医学書院 2009年

《授業の到達目標》

精神障害者の置かれている状況を理解しながら、その生活課題に対して精神保健福祉士が実際現場でどのような支援を行っているかを自分の頭で理解し、その支援が自分の実践に近づけるように体得する。

《授業時間外学習》

精神保健福祉法、障害者総合支援法、及び精神保健福祉士法を理解して実習に臨むこと。

《成績評価の方法》

実習に対する事前学習、参加意欲(30%)
 実習記録、及び実習先の評価(40%)
 実習報告会、及び実習報告書の内容(30%)

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	精神科医療機関における現場実習	精神科医療機関における入通院患者の置かれている状況を理解し、その生活課題に対して、精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを实际的に学ぶ。
2	精神科医療機関における現場実習	精神科医療機関における入通院患者の置かれている状況を理解し、その生活課題に対して、精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを实际的に学ぶ。
3	精神科医療機関における現場実習	精神科医療機関における入通院患者の置かれている状況を理解し、その生活課題に対して、精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを实际的に学ぶ。
4	精神科医療機関における現場実習	精神科医療機関における入通院患者の置かれている状況を理解し、その生活課題に対して、精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを实际的に学ぶ。
5	精神科医療機関における現場実習	精神科医療機関における入通院患者の置かれている状況を理解し、その生活課題に対して、精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを实际的に学ぶ。
6	精神科医療機関における現場実習	精神科医療機関における入通院患者の置かれている状況を理解し、その生活課題に対して、精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを实际的に学ぶ。
7	精神科医療機関における現場実習	精神科医療機関における入通院患者の置かれている状況を理解し、その生活課題に対して、精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを实际的に学ぶ。
8	地域の精神保健福祉分野における現場実習	地域の事業所を利用している精神障害者とのかかわりから、その方々の生活状況を理解し、その生活課題に対して精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを学ぶ。
9	地域の精神保健福祉分野における現場実習	地域の事業所を利用している精神障害者とのかかわりから、その方々の生活状況を理解し、その生活課題に対して精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを学ぶ。
10	地域の精神保健福祉分野における現場実習	地域の事業所を利用している精神障害者とのかかわりから、その方々の生活状況を理解し、その生活課題に対して精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを学ぶ。
11	地域の精神保健福祉分野における現場実習	地域の事業所を利用している精神障害者とのかかわりから、その方々の生活状況を理解し、その生活課題に対して精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを学ぶ。
12	地域の精神保健福祉分野における現場実習	地域の事業所を利用している精神障害者とのかかわりから、その方々の生活状況を理解し、その生活課題に対して精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを学ぶ。
13	地域の精神保健福祉分野における現場実習	地域の事業所を利用している精神障害者とのかかわりから、その方々の生活状況を理解し、その生活課題に対して精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを学ぶ。
14	地域の精神保健福祉分野における現場実習	地域の事業所を利用している精神障害者とのかかわりから、その方々の生活状況を理解し、その生活課題に対して精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを学ぶ。
15	地域の精神保健福祉分野における現場実習	地域の事業所を利用している精神障害者とのかかわりから、その方々の生活状況を理解し、その生活課題に対して精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを学ぶ。

科目名	インターンシップ	科目ナンバリング	SFFD24010
担当者氏名	稲富 恭		
授業方法	実習	単位・必選	4・選択
		開講年次・開講期	4年・通年（I期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-5 自己の言動や役割に対して責任を持つとする態度（社会的責任） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力）		

《授業の概要》

インターンシップは、企業やNPOなどの団体に実際に勤務をし、社会の仕組みや団体でのコミュニケーションの方法などの体験を通して学ぶことを目的としています。また企業などの組織について知ることも重要な目的となっています。

《テキスト》

テキストは用いません。

《参考図書》

授業時間中に指示します。

《授業の到達目標》

- ・インターンシップを通し、企業や労働の実態の理解を深めるとともに職種ごとの働き方について理解することが出来ます。
- ・インターンシップを通し、社会との関わり方や多様な世代とのコミュニケーションの取り方を身につけることが出来ます。
- ・インターンシップを通し、企業研究を進め、将来の進路を見定めることが出来るようになります。

《授業時間外学習》

インターンシップ先の検討、企業研究においては、インターネットでの情報収集、有価証券報告書や新聞記事、雑誌記事などの読解を通し自主的な取り組みで実施するため、その準備はすべて授業時間外で実施することになります。インターンシップ中は業務日報の作成が必要になります。

《成績評価の方法》

授業中の課題達成度(30%)、インターンシップ先での評価(30%)、事後の振り返りにおけるレポート等(40%)
 提出物については、コメントを付し返却する。

《備考》

この授業は、ソーシャルワーク実習を履修しない学生のみ履修することが出来ます。ソーシャルワーク実習と両方の履修はできません。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	インターンシップの目的とスケジュールについて
2	キャリア教育とインターンシップ	雇用の現状と大学設置基準等によるキャリア教育の位置づけについて 社会人基礎力
3	社会人基礎力の形成	一般教養とSPI試験 ビジネスマナー・書類の書き方等、ビジネス等の活動に必要なスキル
4	企業研究	法人組織の仕組み 会社概要、事業内容、企業業績等の理解
5	インターンシップ先の検討	インターンシップ先の希望調査と調整
6	インターンシップ計画の作成	インターンシップ計画について検討し、計画書を作成する
7	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))
8	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))
9	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))
10	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))
11	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))
12	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))
13	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))
14	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))
15	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))

科目名	インターンシップ	科目ナンバリング	SFFD24010
担当者氏名	稲富 恭		
授業方法	実習	単位・必選	4・選択
		開講年次・開講期	4年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-5 自己の言動や役割に対して責任を持つとする態度(社会的責任) ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる(知識・技能の統合) ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる(創造的思考力)		

《授業の概要》

インターンシップは、企業やNPOなどの団体で実際に勤務をし、社会の仕組みや団体でのコミュニケーションの方法などの体験を通して学ぶことを目的としています。また企業などの組織について知ることも重要な目的となっています。

《テキスト》

テキストは用いません。

《参考図書》

授業時間中に指示します。

《授業の到達目標》

- ・インターンシップを通し、企業や労働の実態の理解を深めるとともに職種ごとの働き方について理解することが出来ます。
- ・インターンシップを通し、社会との関わり方や多様な世代とのコミュニケーションの取り方を身につけることが出来ます。
- ・インターンシップを通し、企業研究を進め、将来の進路を見定めることが出来るようになります。

《授業時間外学習》

インターンシップ先の検討、企業研究においては、インターネットでの情報収集、有価証券報告書や新聞記事、雑誌記事などの読解を通し自主的な取り組みで実施するため、その準備はすべて授業時間外で実施することになります。インターンシップ中は業務日報の作成が必要になります。

《成績評価の方法》

授業中の課題達成度(30%)、インターンシップ先での評価(30%)、事後の振り返りにおけるレポート等(40%)
 提出物については、コメントを付し返却する。

《備考》

この授業は、ソーシャルワーク実習を履修しない学生のみ履修することが出来ます。ソーシャルワーク実習と両方の履修はできません。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	インターンシップ帰校日	進行中のインターンシップにおける現状について評価・検討し、改善方法について検討する。
2	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))
3	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))
4	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))
5	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))
6	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))
7	(実習)	インターンシップ(3週間(予定)) 実習巡回指導
8	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))
9	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))
10	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))
11	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))
12	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))
13	インターンシップ報告書の作成	インターンシップ報告会のための資料を整備する
14	インターンシップ報告会	インターンシップの報告会を実施する
15	授業のまとめ	インターンシップの振り返りと反省を行う

《専門教育科目 専門発展科目》

科目名	社会福祉特別講義 I		科目ナンバリング	SFFD20001
担当者氏名	小林 茂			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
				4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-4 学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる（自己管理能力） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ◎ 3-5 市民として専門家として自律的に学習を継続することができる（市民性・生涯学習力）			

《授業の概要》

4年間の学びの集大成として社会福祉士、精神保健福祉士の国家試験の合格をめざし、各受験科目の学習の振り返りと到達点の確認を行います。受験準備に向けて自主学習を進めつつ、不明な点を各教員に質問できるようにします。また、適時、受験科目の特別講座を開いていきます

《テキスト》

社会福祉国家試験ワークブック（適時指定する）
精神保健福祉士ワークブック（適時指定する）

《参考図書》

各学生の到達段階に合わせて、個別に提示します

《授業の到達目標》

- ①社会福祉士国家試験、精神保健福祉士の各試験の出題基準と傾向を理解する
- ②各試験科目の要点やキーワードを整理し理解する
- ③模擬試験などを通じて、自己の学習到達点を積み上げ、合格を目指す

《授業時間外学習》

1. 本授業時間だけではなく、学生による学習グループをつくり毎日受験勉強をする習慣を身につけること。
2. 誤った箇所、不明な点は放置せず、分かるまで調べる習慣を身に付けること。
3. 学習してきたノートを整理する習慣を身につけること。
4. 本試験時間は合計4時間。模擬試験も同様の時間をかけます

《成績評価の方法》

- (1) 授業内での取り組む問題の成果 50%
- (2) 模擬試験の結果 50%

※授業内で取り組む問題については採点コメントを付して返却する

《備考》

国家試験受験が履修条件となります。国家試験を受験するか否か、履修登録前によく考えて登録してください。受験しない学生は履修する必要はありません。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	社会福祉士、精神保健福祉士の国家試験の出題範囲と試験傾向について解説および各学生の学習計画を作成する
2	学内模擬試験①	社会福祉士、精神保健福祉士の国試共通科目11科目の模擬試験を行い、各自の理解していないところを確認する。
3	学内模擬試験②	社会福祉士の専門科目8科目の模擬試験を行い、各自の理解していないところを確認する。
4	(共通科目) 要点整理①	「人体の構造と機能及び疾病」「心理学理論と心理的支援」の要点整理
5	(共通科目) 要点整理②	「社会理論と社会システム」「現代社会と福祉」「地域福祉の理論と方法」の要点整理
6	(共通科目) 要点整理③	「福祉行財政と福祉計画」「社会保障」の要点整理
7	(共通科目) 要点整理④	「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」「低所得者に対する支援と生活保護」の要点整理
8	(共通科目) 要点整理⑤	「保険医療サービス」「権利擁護と成年後見制度」の要点整理
9	(専門科目) 要点整理①	「相談援助の基盤と専門職」「相談援助の理論と方法」の要点整理
10	(専門科目) 要点整理②	「社会調査の基礎」「福祉サービスの組織と経営」の要点整理
11	(専門科目) 要点整理③	「高齢者に対する新給付と介護保険制度」「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」の要点整理
12	(専門科目) 要点整理④	「就労支援サービス」「更生保護制度」の要点整理
13	(専門科目) 要点整理	精神保健福祉士の専門科目の要点整理
14	学内模擬試験①	社会福祉士、精神保健福祉士の国試共通科目11科目の模擬試験を行い、各自の理解していないところを確認する。
15	学内模擬試験②	社会福祉士の専門科目8科目の模擬試験を行い、各自の理解していないところを確認する。

《専門教育科目 専門発展科目》

科目名	社会福祉特別講義Ⅱ		科目ナンバリング	SFFD20002
担当者氏名	小林 茂			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期 4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-4 学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる（自己管理能力） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ◎ 3-5 市民として専門家として自律的に学習を継続することができる（市民性・生涯学習力）		

《授業の概要》

4年間の学びの集大成として社会福祉士、精神保健福祉士の国家試験の合格をめざし、各受験科目の学習の振り返りと到達点の確認を行います。受験準備に向けて自主学習を進めつつ、不明な点を各教員に質問できるようにします。また、適時、受験科目の特別講座を開いていきます

《テキスト》

社会福祉国家試験ワークブック（適時指定する）
精神保健福祉士ワークブック（適時指定する）

《参考図書》

各学生の到達段階に合わせて、個別に提示します

《授業の到達目標》

- ①社会福祉士国家試験、精神保健福祉士の各試験の出題基準と傾向を理解する
- ②各試験科目の要点やキーワードを整理し理解する
- ③模擬試験などを通じて、自己の学習到達点を積み上げ、合格を目指す

《成績評価の方法》

- (1) 授業内での取り組む問題の成果 50%
- (2) 模擬試験の結果 50%

※授業内で取り組む問題については採点コメントを付して返却する

《授業時間外学習》

1. 本授業時間だけではなく、学生による学習グループをつくり毎日受験勉強をする習慣を身につけること。
2. 誤った箇所、不明な点は放置せず、分かるまで調べる習慣を身につけること。
3. 学習してきたノートを整理する習慣を身につけること。
4. 本試験時間は合計4時間。模擬試験も同様の時間をかけます

《備考》

国家試験受験が履修条件となります。国家試験を受験するかどうか、履修登録前によく考えて登録してください。受験しない学生は履修する必要はありません。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	国家試験の傾向、各学生の個別の到達点に合わせた学習計画を立てる
2	問題演習①	社会福祉士・精神保健福祉士の共通科目11科目のうちから、練習問題を解きながら、自己の知識の不足を補っていきます
3	問題演習②	社会福祉士、精神保健福祉士の専門科目の練習問題を解きながら、自己の知識の不足を補っていきます
4	問題演習③	社会福祉士・精神保健福祉士の共通科目11科目のうちから、練習問題を解きながら、自己の知識の不足を補っていきます
5	問題演習④	社会福祉士、精神保健福祉士の専門科目の練習問題を解きながら、自己の知識の不足を補っていきます
6	学内模擬試験①	模擬試験を通じて、国家試験の出題傾向を理解してきます。
7	学内模擬試験②	模擬試験を通じて、国家試験の出題傾向を理解してきます。
8	(共通科目) 要点整理	模擬試験を通じて判明した苦手科目の要点整理を再度行います
9	(専門科目) 要点整理①	模擬試験を通じて判明した苦手科目の要点整理を再度行います
10	(専門科目) 要点整理②	模擬試験を通じて判明した苦手科目の要点整理を再度行います
11	学内模擬試験③	模擬試験を通じて、国家試験の出題傾向を理解してきます
12	学内模擬試験④	模擬試験を通じて、国家試験の出題傾向を理解してきます
13	学内模擬試験⑤	模擬試験を通じて、国家試験の出題傾向を理解してきます
14	学内模擬試験⑥	模擬試験を通じて、国家試験の出題傾向を理解してきます
15	総括	これまで学習してきたことを各自で総括整理します

《教職に関する科目》

科目名	高等学校教育実習	科目ナンバリング	STSW44003
担当者氏名	吉原 恵子		
授業方法	実習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

授業のねらいは、教育実習の目的を達成することにある。具体的には、事前指導において、教育現場や教員の職務範囲などについて理解するとともに、すでに履修している教職に関わる科目の振り返りによって、実習時に必要な知識と理論を統合化する。事後指導においては、教育実習の成果を自己確認するとともに、他の実習生との意見交換、情報交換、討議などにより経験の共有化を図る。

《授業の到達目標》

- (1) 教職に関する科目の振り返りを行い、それらの知識や技術を現場実習のどの場面でもどのように用いるのか説明できる。
- (2) 教科に関する科目の振り返りを行い、それらの知識や技術を現場実習のどの場面でもどのように用いるのか説明できる。
- (3) 教職を希望する者にとって、教育実習がどのような意義をもつか説明できる。

《成績評価の方法》

実習校による実習評価(50%)、およびレポート(30%)、実習報告会における発表(20%)の総合評価
提出物については、コメントを付し返却する。

《テキスト》

『教育実習の研究』教師養成研究会（学芸図書，2001）

《参考図書》

『教育実習の新たな展開』有吉秀樹・長沢憲保（ミネルヴァ書房，2001）
『福祉教育論』村上尚三郎他（1998、北大路書房）
『福祉教育の理論と実践』阪野貢編著（2000、相川書房）

《授業時間外学習》

履修期間だけでなく、日常生活および学業生活全体のなかで、教職をめざす者としての自覚を持って行動することが求められる。

《備考》

授業案作成および模擬授業に関しては授業外の指導も合わせて行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教育実習全体の理解	教科「教育実習」の目的と方法を理解する
2	教育実習の全体（1）	1）教員養成と教育実習 2）教育実習の目的を理解する
3	教育実習の全体（2）	3）教育実習の展開 4）教育実習の心得を理解する
4	教育実習の内容（1）	1）学校経営 2）学校の組織を理解する
5	教育実習の内容（2）	3）生徒の理解 4）教育課程 5）学習指導を理解する
6	教育実習の実際（1）	1）教材研究の実際 2）学習指導の実際を理解する
7	教育実習の実際（2）	3）学習指導案の事例を理解する
8	教育実習の実際（3）	4）授業研究の実際を理解する
9	教育実習の実際（4）	5）道徳・特別活動・生活指導の実際 6）教育実習の評価を理解する
10	教育の方法及び技術（1）	1）授業の仕組みとはたらきを理解する
11	教育の方法及び技術（2）	2）教育方法および教育技術を理解する
12	教材研究と指導案づくり（1）	1）学習指導要領 2）学習分野を理解する
13	教材研究と指導案づくり（2）	3）発問や応答 4）時間配分 5）学習目標と評価を理解する
14	模擬授業（1）	1）授業の位置づけ 2）授業の構成要素を理解する
15	模擬授業（2）	3）授業内容の難易度 4）授業目標の達成と評価を理解する

《教職に関する科目》

科目名	教職実践演習（高）		科目ナンバリング	STSW44004	
担当者氏名	吉原 恵子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

学生は「教職」を教科指導を中心とした教職イメージで捉えがちである。本演習では、学校現場の視点から見た教員の仕事内容とその職務について学習することを中心として、これまでの教職課程で得られた知識・技術を総合的に用いる能力を実践的授業方法により養う。

《テキスト》

・「自己成長を目指す教職実践演習」（原田 恵理子、森山 賢一著）

《参考図書》

「教職実践演習ワークブック -ポートフォリオで教師力アップ」（西岡 加名恵、川地 亜弥子著）

《授業の到達目標》

- (1) 教職課程において既に習得している専門的な知識・技能および教育実習経験の統合を図ることができる。
- (2) 教員としての使命感や責任感を説明できる。
- (3) 教科指導のほか生徒指導など教員の多様な職務内容を説明できる。
- (4) 教育現場で実践するために必要な諸能力（汎用的技能など）を身につけ、示すことができる。

《授業時間外学習》

本科目では、授業ごとの予習復習というよりは、日頃から教育問題に関心を持ち、「教育とは何か」「子どもを導くとはどのようなことか」などについて自分なりの考えを述べられるようにまとめておくことが大切である。教授・指導上の観点だけでなく、教育法規的な側面、学校の社会的な役割、世界の動向など、多面的・複眼的に捉える力を養う努力が求められる。

《成績評価の方法》

毎回の授業記録（ポートフォリオ等）に基づく学生による自己評価（40%）と教員による評価（60%）の相互評価を実施する。提出物については、コメントを付して返却する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教育実践演習とは何か 教育実習のふり返り	教職実践演習の科目としての意義を理解するとともに、教育実習のふり返りを通して教職に就く者として必要な能力・技能について検討する。
2	学習指導要領の内容理解 学習指導案作成のまとめ	学習指導要領の内容についてふりかえり、学習指導案作成の要点や技術についてまとめる（事例研究および討議）
3	模擬授業	模擬授業を実施する（授業実施および討議）
4	道徳教育と特別活動(1)	道徳教育と特別活動について知識としてふり返りを行うとともに、多様な事例を検討し実践的課題を検討する（事例研究および討議）
5	道徳教育と特別活動(2)	道徳教育と特別活動について知識としてふり返りを行うとともに、多様な事例を検討し実践的課題を検討する（事例研究および討議）
6	子どもの発達の理解	思春期・青年期の特性と発達課題を理解するとともに、認知的発達、人間関係の発達について考察する
7	生徒指導と教育相談(1)	生徒指導および教育相談の概念についてふり返るとともに、一次的援助と二次的援助、三次的援助について理解する
8	生徒指導と教育相談(2)	一次的援助と二次的援助、三次的援助について事例（不登校、いじめ、発達障害、問題行動等）をもとに理解を深める（ロールプレイングおよび討議）
9	特別支援教育	就学指導のあり方、個別の指導計画の活用、発達検査等について知識の確認を行うとともに、協働による子ども支援、専門機関・地域・保護者との連携等について検討する
10	学級経営のあり方について(1)	学級担任の役割を理解するとともに、学級経営の進め方、保護者との関わり方などについて、困難事例を中心として検討する（事例研究および討議）
11	学級経営のあり方について(2)	学級担任の役割を理解するとともに、学級経営の進め方、保護者との関わり方などについて、困難事例を中心として検討する（事例研究および討議）
12	教師のコミュニケーション力について	教師は学校組織の一員である一方、児童生徒に対しては指導的立場にある。これらを理解し、教員のコミュニケーション力について検討する（ロールプレイングおよび討議）
13	保護者・地域社会への対応について	保護者および地域との連携・協働の重要性について理解するとともに、それに必要なソーシャルスキルについて、事例を検討し習得する
14	教師としての使命感・責任感、倫理観、教育的愛情	現場で求められている教師の資質・能力とはなにかについて理解するとともに、教育委員会や社会が求める教師の力量についても検討し、自己成長の重要性を知る
15	学習のまとめ	学習のふり返りと学習成果の評価